

【生薬名】川貝母 *FRITILLARIAE BULBUS*

【起源植物】 *Fritillaria cirrhosa*



【科名】ユリ科Liliaceae

【別名】貝母一名空草(神農本草経)、生薬には浙貝母と川貝母がある

【薬用部分】鱗茎

【主成分】アルカロイド(フリチン、ルペイシン、ベルペイシンなど)

【薬性】気味は苦甘微寒、帰経は心肺に属す

【効能】●潤肺化痰

●鎮咳・去痰作用、アトロピン様作用、気管支平滑筋の痙攣を止め分泌を減少、降圧作用、子宮興奮作用、腸の蠕動を抑制する。

●咳、痰に煎服する。慢性の咳嗽で、咽が乾く、煩熱、痰が少ない、痰に血が混じる、胸部や上腹部が張って苦しい、食欲不振など肺陰虚にもちい、肺結核や慢性気管支炎などの咳嗽によい

●川貝母は化痰解鬱の効能がある。古人は経験的に「食欲不振・多痰に対し、解鬱化痰するには川貝母が最良の妙薬である」といつている

●川貝母は祛痰すると同時に痰の分泌を抑制するので痰が多い時にも使用できる

●急性の気道炎症、急性上気道炎などによる咳嗽によい、

●川貝母は少なめに使う、1日1.5~2g

【出典】●貝母、一名空草。味辛平。治傷寒煩熱。淋瀝邪氣疝瘕。喉痺乳難。金創風瘕。(神農本草経中品)

●嗽を止め、痰を化し、肺癰、肺痿、鬱を開き煩を除く。(薬性歌)

【備考】●川貝母はデザートとして食べられる貝母で小型

●浙貝母は燥性が激しく、清熱の効能も強いため急性の風熱の咳嗽に向き、川貝母は薬性もおだやかで小児や慢性の咳嗽、元気のない肺燥の咳嗽に適している

【処方例】●清燥救肺湯